

IPBES

自然の多様な価値と価値評価 の方法論に関する評価報告書 政策決定者向け概要（**SPM**）の解説

Venue and Date Here

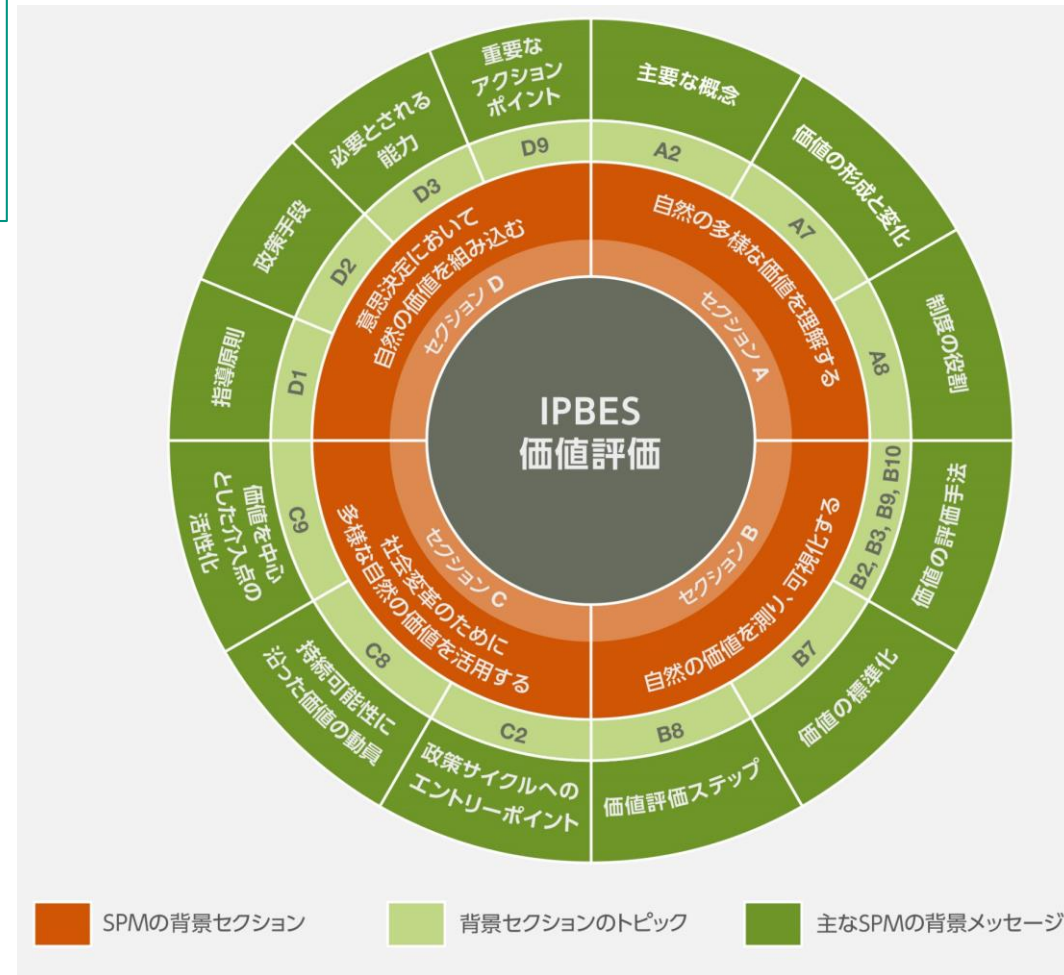
Name of Presenter Here

Position/Title of Presenter Here



評価の対象、枠組と方法

- 全世界の約100名の専門家(うち日本人1名)が**13,000** にものぼる科学論文などの膨大な知見ならびに先住民と地域コミュニティの知識体系を分析。
- IPBES第9回総会(2022年)で本体報告書を受理し、政策決定者向け要約(SPM)を承認。
- 人々の良質な生活と地球上の生命を調和させ、持続可能な開発における**経済・社会・環境の側面をバランスよく発展**させるための経路を示すガイダンスを提供。
- 様々な**世界観と価値の関係、価値の類型、そして自然の価値の評価手法と評価過程の設計と実施**および**自然の多様な価値を意思決定と政策立案に組み込む**ための指針を含む。
- さまざまな関係主体や制度にわたる社会変革を引き起こすために、**複数の価値観に働きかけるための重要な能力**を強調。
- **公正で持続可能な将来**に向けた、生物多様性2050年ビジョン、持続可能な開発のための2030アジェンダ、ポスト2020生物多様性枠組の達成への貢献が期待される。



価値評価報告書の構成要素

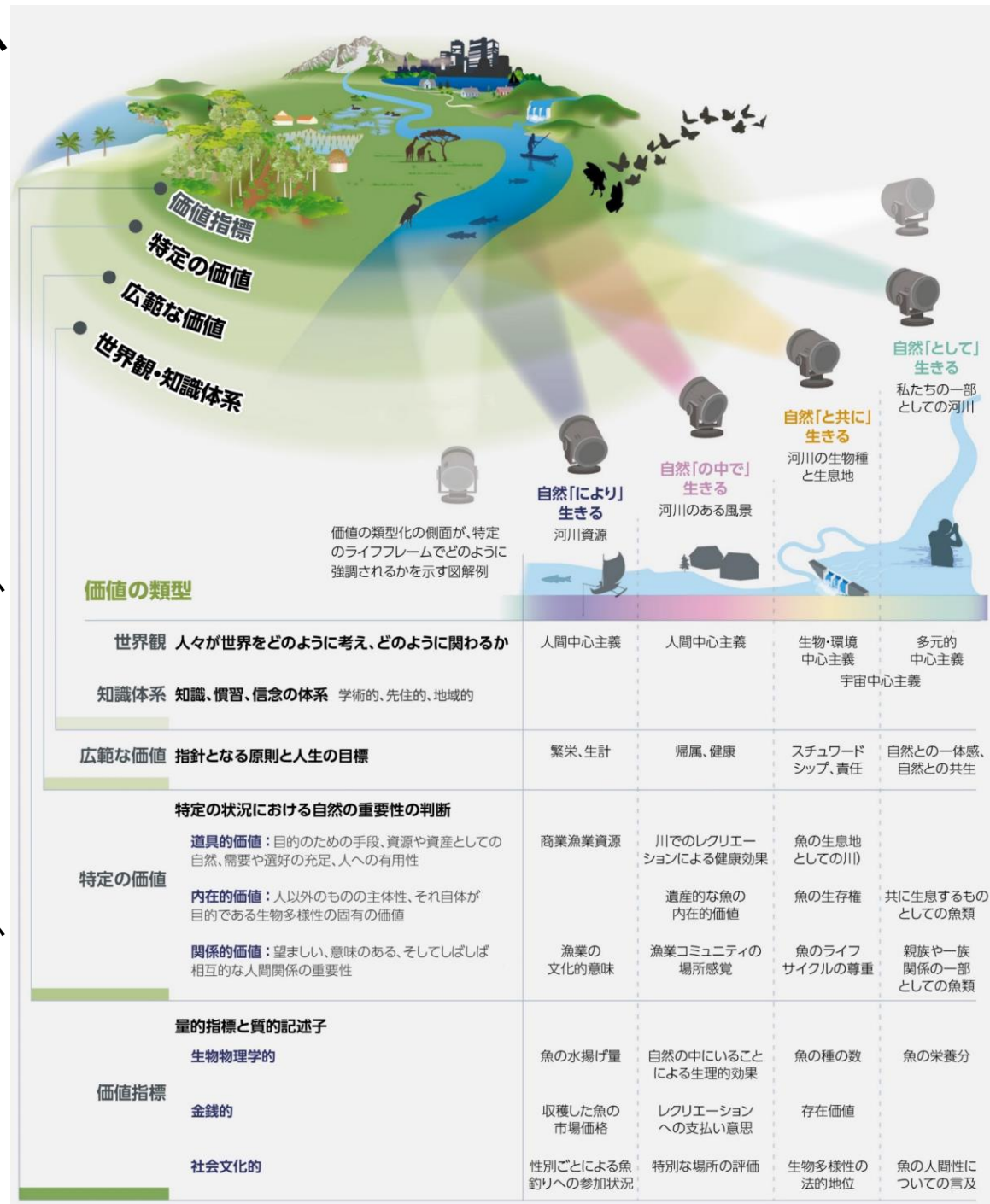
自然の多様な価値を取り入れる必要性

- 世界の生物多様性の危機の原因とそれらに対処する機会は、あらゆるレベルの政治的・経済的決定において自然がどのように評価されているかに密接に関連している。
 - 世界的な生物多様性の減少の重要な要因は、**狭い価値観に基づく政治的・経済的意思決定**（市場取引によって自然の価値を優先するなど）に起因する、国家間・国内間の根強い不平等を含む**持続不可能な自然利用**である。
 - 持続可能な開発のための2030アジェンダや生物多様性2050年ビジョンを達成するには、**自然の多様な価値**を取り入れ、**公正と持続可能性**が相互に支え合う目標や、**相互に絡み合う経済、社会、環境の各側面を考慮したシステム全体の変革**が必要である。
- 自然の価値は多様であるにもかかわらず、ほとんどの政策立案アプローチは、**自然と社会、そして将来世代を犠牲に、狭い範囲の価値を優先させ、先住民や地域コミュニティの世界観に関連する価値をしばしば無視してきた。**
 - 自然が人々にとって様々なかたちで重要である面が**ほとんど無視**され、**自然の価値の狭い範囲が優先**されることが多い（例：短期的な利益や経済成長を重視した国内総生産（GDP）などのマクロ経済指標）。
 - このような指標では、**一般に市場を通じて反映される自然の価値しか考慮されない**ため、生活の質への影響を適切に反映することができない。
 - 自然が人にもたらす**非市場価値**が見落とされている。
 - 自然や生態系の**過剰な採取**や**生物多様性および長期的な持続可能性への影響**を軽視。
 - 生物多様性自体を重視する保全政策は、**他の価値を軽視**し、自然を生活の糧とする**地域住民を排除**することになりかねない。
 - 開発政策や環境政策の多くが**自然の持つ価値の限定的な部分のみを根拠**としており、その傾向は**社会規範や公的規則に組み込まれ、助長**されている。

多様な自然の価値を包括的に類型化する

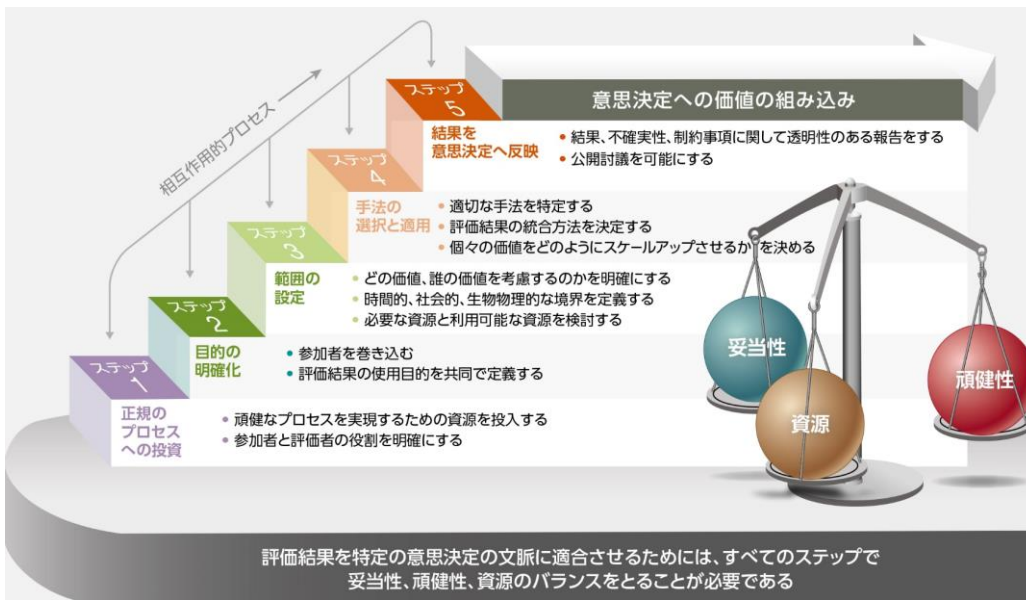
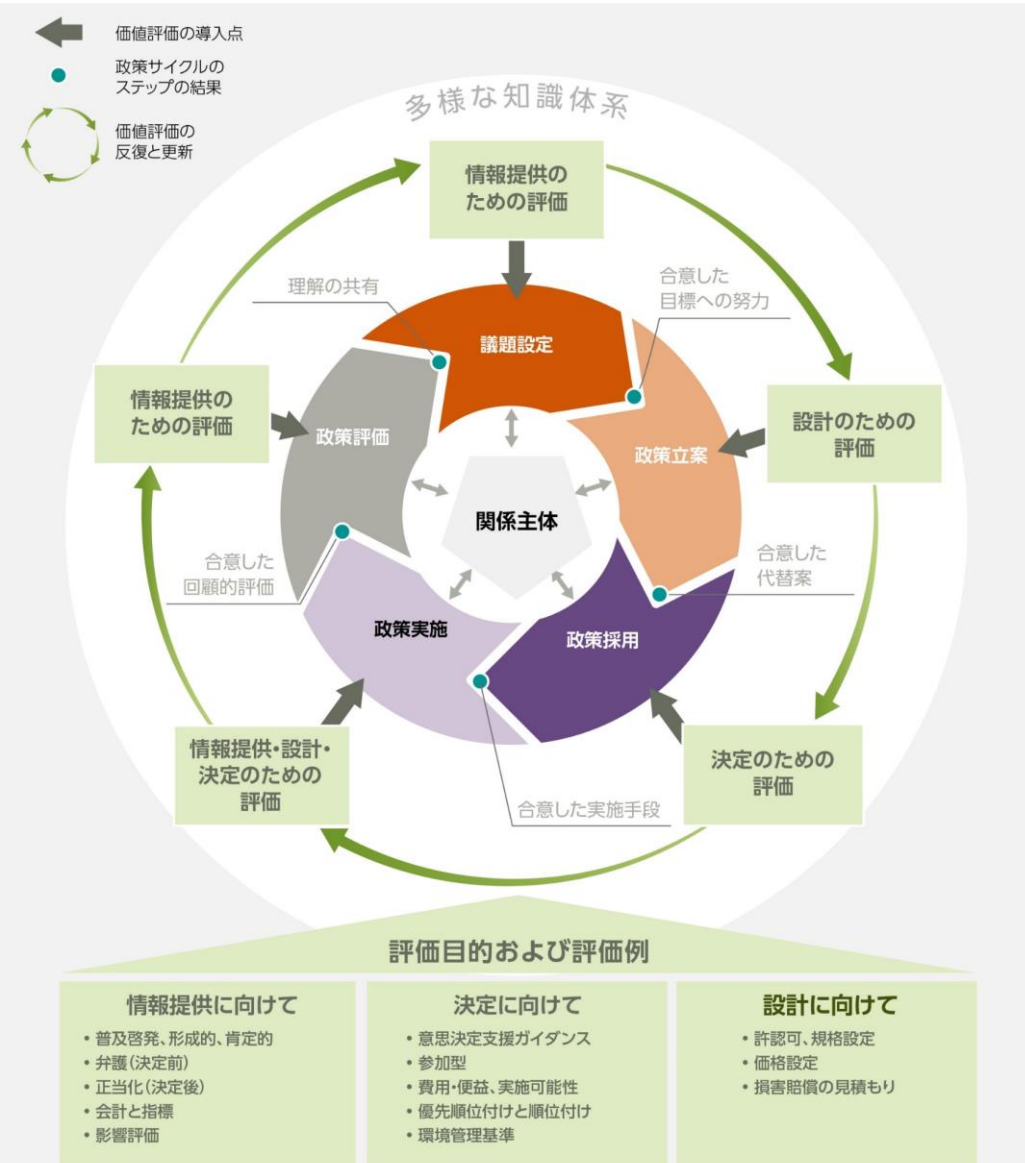
- 政策決定における自然の価値の多様性は、**人と自然との関係の豊かさを包含する自然の価値の類型を考慮**することで高めることができる
- この類型化は、**価値に関する複数の理論的視点を統合**したものであり、意思決定者が**自然の多様な価値に関する**様々な理解と政策的含意を検討するために活用できる。
 - 例：異なる種類の価値をどのように扱うことが最善かを特定するために、価値を直接比較したり、重ね合わせたり、並行して使用する等
- ライフフレーム**：
人々の自然に対する様々な関わり方を、**「自然により」・「自然の中で」・「自然と共に」・「自然として」生きる**、という一般化された様式に整理することができる。

これは人々の多様な**世界観**、**知識体系**、**広範**かつ**特定の価値**を反映したものである。



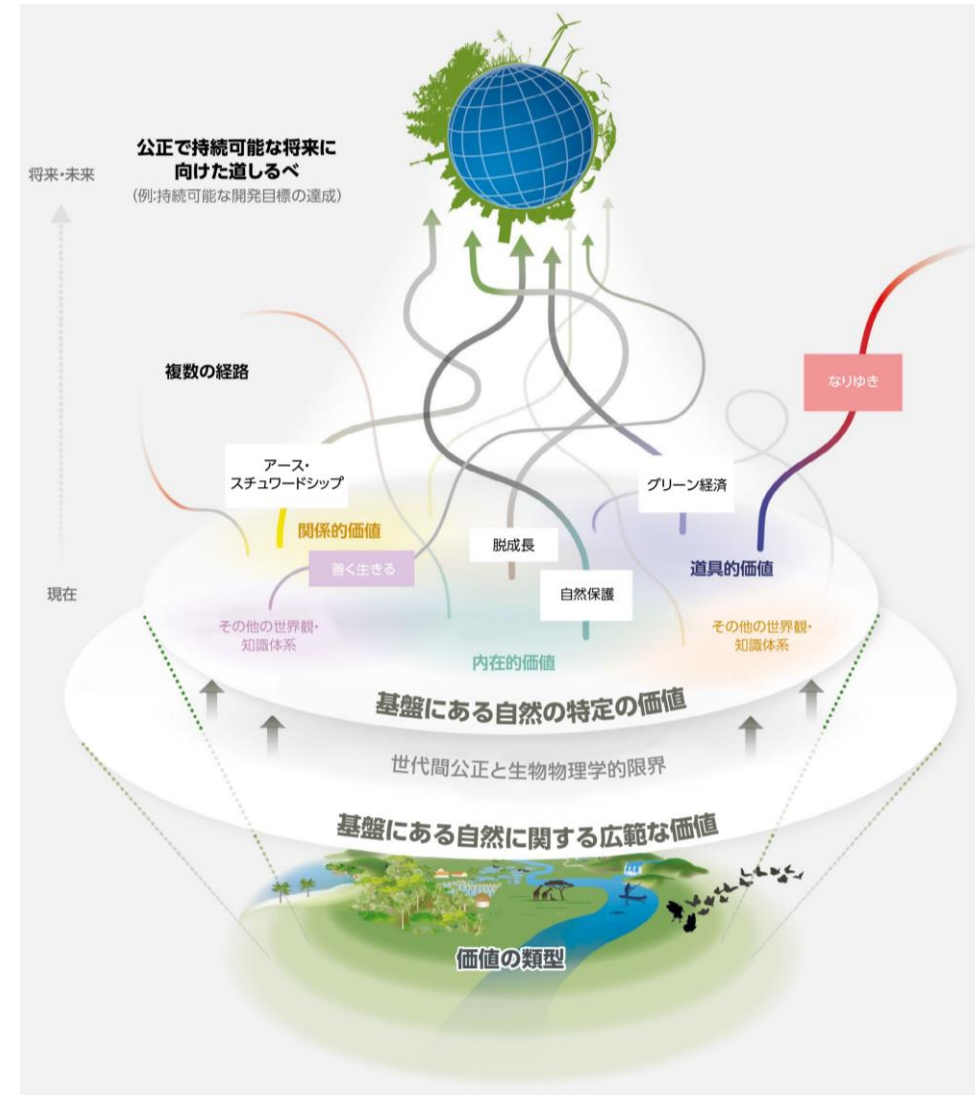
自然の価値を可視化し、政策に組み込む

- 価値評価とは、**人が自然に対して抱いている多様な価値を可視化**するために、**合意された手法を適用する、明示的かつ意図的な過程**である。
- 評価において、個人を超えて**複数の個人、関係主体、利益集団の価値を考慮**することが不可欠な要素。
- 評価手法の**妥当性、頑健性、資源要件のトレードオフ**に対処
- 価値評価における**5つの反復的なステップ**
- **関連性、堅牢性、資源要件**のトレードオフの評価
- 自然が持つ多様な価値を引き出し、評価するために、**4つの「手法群」**：(i) **自然に基づく評価**、(ii) **表明に基づく評価**、(iii) **行動に基づく評価**、(iv) **統合評価**
- 発表された価値評価研究のうち政策決定への取り込みを報告しているのは**5%未満**である
- 政府の意思決定における価値評価は、**評価過程が政策決定のさまざまな段階に関連し、十分な資源がある場合に**、より取り込みやすくなる。



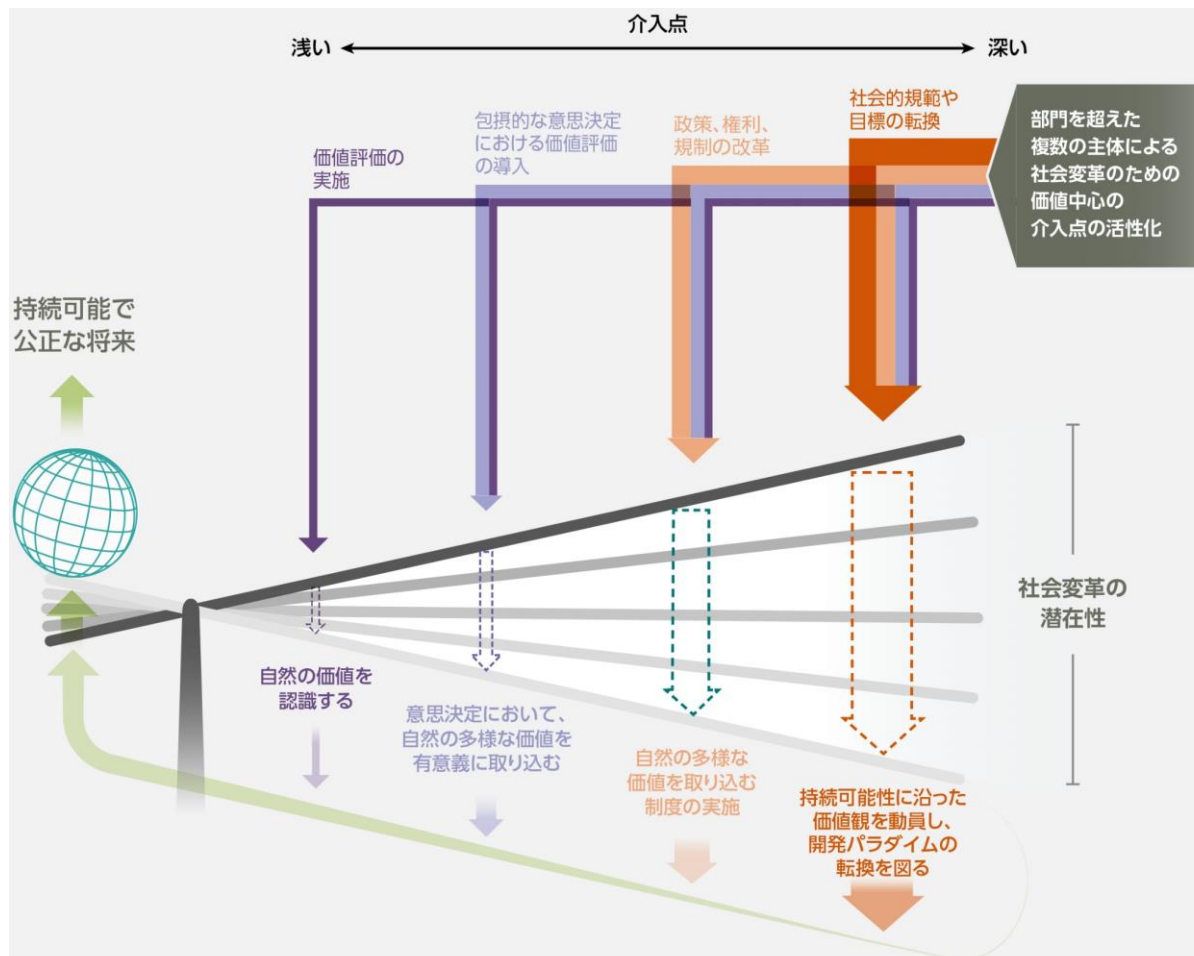
自然の多様な価値を認識・統合し、社会変革を可能にする

- 持続可能で公正な将来を実現するため、自然の多様な価値を認識し、統合する制度が必要
 - 非公式の社会通念・規範や、公式の法的規則（すなわち**制度**）は、人々の生活を支配し、意思決定者の行動を規制している。社会で自然の価値を形成する上で重要な役割を担う。
 - 既存の制度を改革し、**自然の多様な価値への配慮を主流**とする必要がある。
 - **権力の非対称性**に取り組む
 - **先住民や地域コミュニティの自然との関わり方や価値観をより包摂的に考慮した政策**
-
- 短期的・個人的な物質的利益を重視する現代の支配的な価値観から、社会全体で持続可能性に沿った価値観を育む方向への移行が必要
 - 社会的な目標には、人々や自然に対する**正義**、**スチュワードシップ**、**結束**、**責任**といった幅広い価値観とより強く結びつける
 - 意思決定における**バランスの取れた価値観**
 - 公正で持続可能な未来を実現には、「**グリーン経済**」、「**脱成長**」、「**アース・スチュワードシップ**」、「**自然保護**」、その他多様な世界観や知識システム（例：母なる地球と調和して生きる）から生まれる経路がある
 - これらの持続可能性への経路はすべて、特定の**持続可能性に沿った価値観と関連**しており、社会、経済、生態学的側面を調和させるための基盤として、**自然をより多様に評価**することを求めている。



価値に基づく4つの介入点に取り組み社会変革を促進する

- 価値に基づく**4つの介入点**（すなわち、価値評価の実施、意思決定への価値の組み込み、政策改革、社会目標の転換）を組み合わせる
- 価値と価値評価に基づく介入点を組み合わせた以下の行動によって促進される。
 - (i) 適切かつ頑健な価値評価の実施により、自然の価値の多様性を認識する；
 - (ii) 意思決定過程の様々な段階に価値評価を組み込み、自然の多様な価値を考慮する；
 - (iii) インセンティブ、権利、法的規制を再編成し、持続可能性に沿った価値を表現・行動できるよう主体者の権限を強化できるように、政策を改革する；
 - (iv) 世界目標に合わせて社会の目標と規範について検討、策定、転換する場を創出する。



意思決定者の能力構築&知識と行動のギャップの克服

- 意思決定者の能力を養成することで、自然の多様な価値を意思決定に組み込むことができる：
動機付け能力、分析能力、橋渡し能力、交渉能力、社会ネットワーク形成能力、ガバナンス能力
- 関係主体間や異なる価値観の間における**力の非対称性の理解と対処**、**価値評価の供給と需要の適合**など、**知識と行動のギャップを克服**することが、**価値を中心としたシステム全体の変革**を進めることになる。

より詳細な情報は:

IPBESウェブサイト

- ・自然の多様な価値と価値評価の方法論に関する評価報告書

全資料掲載サイト

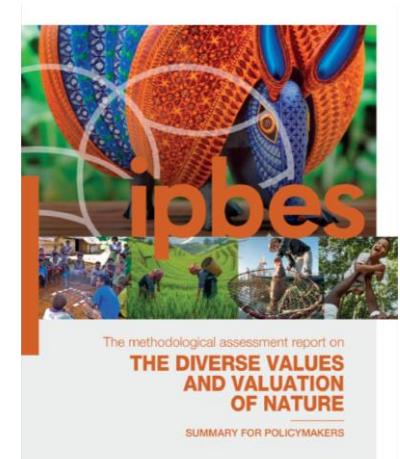
<https://www.ipbes.net/the-values-assessment>

- ・政策決定者向け要約
[英語版] (48頁)

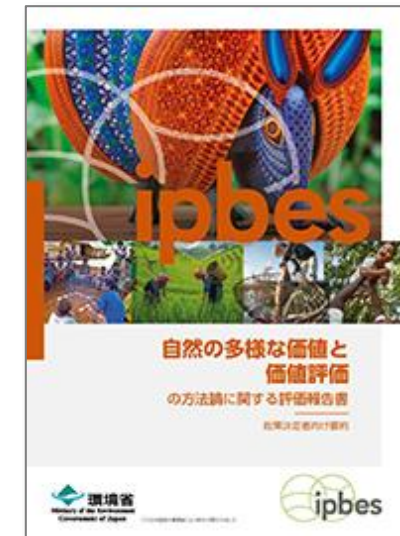
<https://zenodo.org/record/7410287#.ZBFXx3bP2Uk>

[環境省和訳版] (48頁)

<https://www.iges.or.jp/en/pub/ipbes-values-spm-j/en>



政策決定者向け要約
(英語版)



政策決定者向け要約
(環境省和訳版)